

令和5年度指定管理者事業報告

(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

1 施設運營業務の実施状況及び利用状況

(1) 施設管理

京都市景観・まちづくりセンターの管理を行う。 ※ () は前年度

ア 京都市景観・まちづくりセンター

・年間来場者数 47,168人 (44,074人)

イ 京のまちかど展示コーナー

京都のまちづくりに関する情報提供を行う展示コーナー

・年間来場者数 30,539人 (30,393人)

ウ ワークショップルーム (2室)

景観・まちづくり大学をはじめとするセンター主催事業、共催事業等に活用

・稼働回数 458回 (476回)

エ まちづくり工房

景観・まちづくり活動に関する作業スペースとして活用

・稼働回数 114回 (71回)

オ 図書コーナー

図書の閲覧及び貸出の実施

(a) 令和5年3月末現在所蔵資料数 18,274点 (18,132点)

(内訳) 一般資料 14,667点 (14,635点)

郷土資料 1,260点 (1,160点)

行政資料 1,024点 (1,017点)

視聴覚資料 303点 (302点)

雑誌 436点 (439点)

地図・絵本等 584点 (579点)

(b) 利用者数 14,594人 (13,193人)

(c) 利用者カード新規発行数 136枚 (111枚)

(d) 利用者カード延べ発行数 4,339枚 (4,203枚)

(e) 図書等貸出数 2,588冊 (2,116冊)

カ 情報システムの活用による情報発信

(a) 施設ホームページアクセス件数 158,679件 (230,691件)

(b) 財団ホームページアクセス件数 105,034件 (121,561件)

(c) メールマガジン発行回数 19回 (18回)

(d) メールマガジン購読登録者数 1,999人 (1,995人)

(e) 公式フェイスブックページ投稿数 68回 (43回)

キ 視察受入

- ・団体数／人数 29 団体／415 人
- ク 各種啓発冊子、技術資料等の販売、京町家キット等の販売
 - ・冊子等：『なるほど！「京町家の改修」』、『京町家の再生』他
 - ・京町家キット等：組み立て式キット、ポストカード
- (2) 景観・まちづくり大学等の運営

以下のセミナー、ワークショップ等を実施した。

 - ア 京のまちづくり史連続講座

京都のまちづくりの歴史を学ぶセミナー

 - ・開催回数／受講人数（延べ） 8 回開催 / 延べ 276 名受講
 - イ 京のまちづくり史関連企画 まちあるき講座
 - ・開催回数／受講人数（延べ） 1 回開催 / 延べ 21 名受講
 - ウ 京町家再生セミナー（※京町家再生事例見学会含む）

京町家の所有者、居住者を対象とした具体的な課題の解決に向けたセミナー

 - ・開催回数／受講人数（延べ） 8 回開催 / 延べ 289 名受講
 - エ 地域まちづくりセミナー
 - ・開催回数／受講人数（延べ） 1 回開催 / 延べ 8 名受講
 - オ 各種団体等との協働セミナー等

景観エリアマネジメント講座
文化財マネージャー育成講座

2 施設運営に係る経費の収支状況

収入		支出		差異
京都市委託料	46,200,000			
受講料収入	385,390	人件費	25,291,949	
		事業費	1,165,229	
		委託費	8,608,118	
		少額修繕費	267,520	
		その他	8,822,646	
合計	46,585,390	合計	44,155,462	2,429,928

3 アンケート等により把握した利用者の満足度やニーズの状況

- (1) 利用者満足度の把握状況
 - ア 意見・感想箱の設置

事務室前、図書コーナーに記入用紙を設置

- イ アンケートの実施
セミナー、シンポジウム等開催時に次企画へ反映するためアンケートを実施
- ウ リクエスト図書の受付（通年）
図書コーナーのカウンターに、予約・リクエストカードを設置

（２）利用者満足度の把握結果

- ア 「景観・まちづくり大学」のアンケートでは、セミナーの内容やテーマについての要望をいただいた。
- イ 図書コーナーでは、配架を希望する図書について意見をいただいた。

（例）京のまちづくり史セミナーの感想：

「歴史系、特に京都の歴史に関するセミナーに関心がある。」「近代建築の改修方法について、よく理解できた。」「京とのまちづくりを考える上で、歴史的背景がリアルにわかりやすかった。」

図書コーナー：

「子供と絵本を読むのを楽しみにしている。」「京都や高齢者に関する本が充実していて、また利用したい。」

（３）意見等への主な対応状況

- ア 意見・感想としていただいたものについては、施設運営に活かせるよう努めている。
- イ アンケートでいただいたものについては、セミナーの企画や今後のイベントの企画に活かせるよう努めている。
- ウ 図書コーナーに寄せられた情報は、配架可能な図書については、蔵書として検討していく。また、配架できない図書については、他図書館等に所蔵情報があれば、情報提供している。
- エ 「ギャラリートーク」に関しては、企画内容を一部見直し、新規利用者獲得のために内容の充実に努める。

4 指定管理者による管理運営業務の自己評価

- ・各種セミナー等については、通年で総合的に学べる内容を企画するとともに、体験型イベントを実施するなど、市民の主体的なまちづくり活動が一層推進されるよう企画を展開した。
- ・「京都ミュージアムロード」に参加し、施設の情報発信に努めた結果、京のまちかどが広く周知をされた。
- ・上杉本の洛中洛外図屏風ギャラリートーク・パネルトークを開催し好評を得た。
- ・毎年認証を受けている KES 環境マネジメント・システム・スタンダード(ステップ1)に基づき、電力使用量及び消耗品使用量の削減、建物周辺の清掃等啓発活動の積極的参加を実行し、環境改善活動を行った。令和5年度はK E S 更新審査の3か年の2年目にあたる。

電気使用量、事務用紙の使用量他全ての目標をクリアした。中でも、29年度末よりFAXをデータ化した管理方法を導入し、ペーパーレスにも積極的に取り組んでいる。

- ・ワークショップルームは景観・まちづくり大学をはじめとする主催、共催事業等での活用のほか、登録団体への貸出しを行っている。
- ・まちづくり交流サロンにおいて、京町家の構造などが分かる模型のほか、ミニチュアハウスと紙彩画の展示「着物づくりと京町家」を常設展示している。
- ・年末の視察受入は、コロナ前の件数近くに急激に回復したにも関わらず、すべてに対応することができた。
- ・令和6年度はウィズコロナに入り、来館者数を増やせるように情報の発信等積極的に行い、受入体制は不備がないようにしていきたい。

以上